

7. サインデザイン

① 南九州市らしい色彩と形状

色彩は南九州市らしさを感じる「緑＝茶畑や山並み」「黄＝ひまわり（市花）」「ピンク＝桜（市木）」をアクセントカラーとして、形状は「お茶の葉」をモチーフとしてデザインし、分かりやすいサイン計画とします。



■庁舎内サインのイメージ

6. 防災計画

① 地震対策（耐震性能 目標Ⅰ類、重要度係数1.5）

構造体は大地震動後、人命の安全確保に加えて十分な機能が確保できる耐震性能（Ⅰ類）とします。
大地震時に建物に求められる地震抵抗（建築基準法で定める数値）の1.5倍相当とし、災害対応拠点施設として機能が維持できる計画とします。

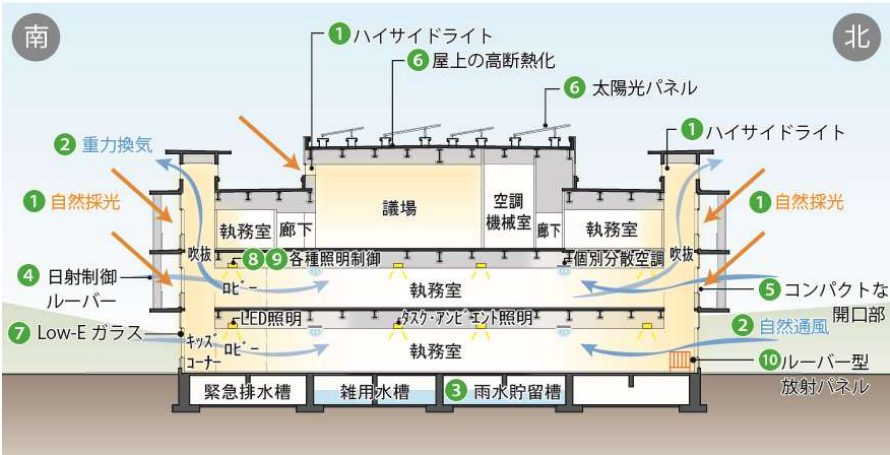
② 防災拠点機能の充実

インフラ等	本計画における対応	
災害対策室等	災害対策本部（災害対策システム）、受援スペース、防災広場（マンホールトイレ）	
備蓄倉庫	附属棟1階 水・食料・防災備品を保管	
電力	発電機	非常用発電機（72時間分備蓄、燃料補給で7日間運転）
上水道	飲料水	備蓄したペットボトルにより飲料水を確保する（備品）
	雑用水	ピットの雑用水槽（雨水）の給水ポンプを稼働し、トイレの洗浄水として利用する。（7日間の水量を確保）
下水道	排水ポンプ	非常電源を供給し、稼働
	排水槽	緊急排水槽をピット槽に設置（7日分）
法的な設備	非常用照明、消火設備、非常放送設備、自動火災報知機	

7. 環境配慮計画

新庁舎はコンパクトな形状として経済性に優れ、環境に配慮した施設とします。エネルギー使用の削減や再生可能エネルギーの導入により Nealy ZEB（省エネ 50%、創エネ 25%）認証を目指します。

- ① 自然光の活用：ハイサイドライト等により自然光を活かした内部空間とします。
- ② 自然換気の促進：吹抜けを活用した温度差による重力換気を促します。
- ③ 雨水貯留槽：トイレの洗浄水に雨水を利用する計画とします。
- ④ 庇とルーバー：日射遮蔽による適度な採光と冷房負荷の低減を図ります。
- ⑥ 熱負荷の低減：太陽光パネルや外壁・屋上の高断熱化により熱負荷の低減を図ります。
- ⑦ Low-E ガラス：窓面からの日射負荷を抑制します。
- ⑧ 人感センサー：消し忘れを防ぎ無駄な電力消費を削減します。
- ⑩ ルーバー型放射パネル：居住域空調とすることで快適性と省エネルギー性に配慮します。

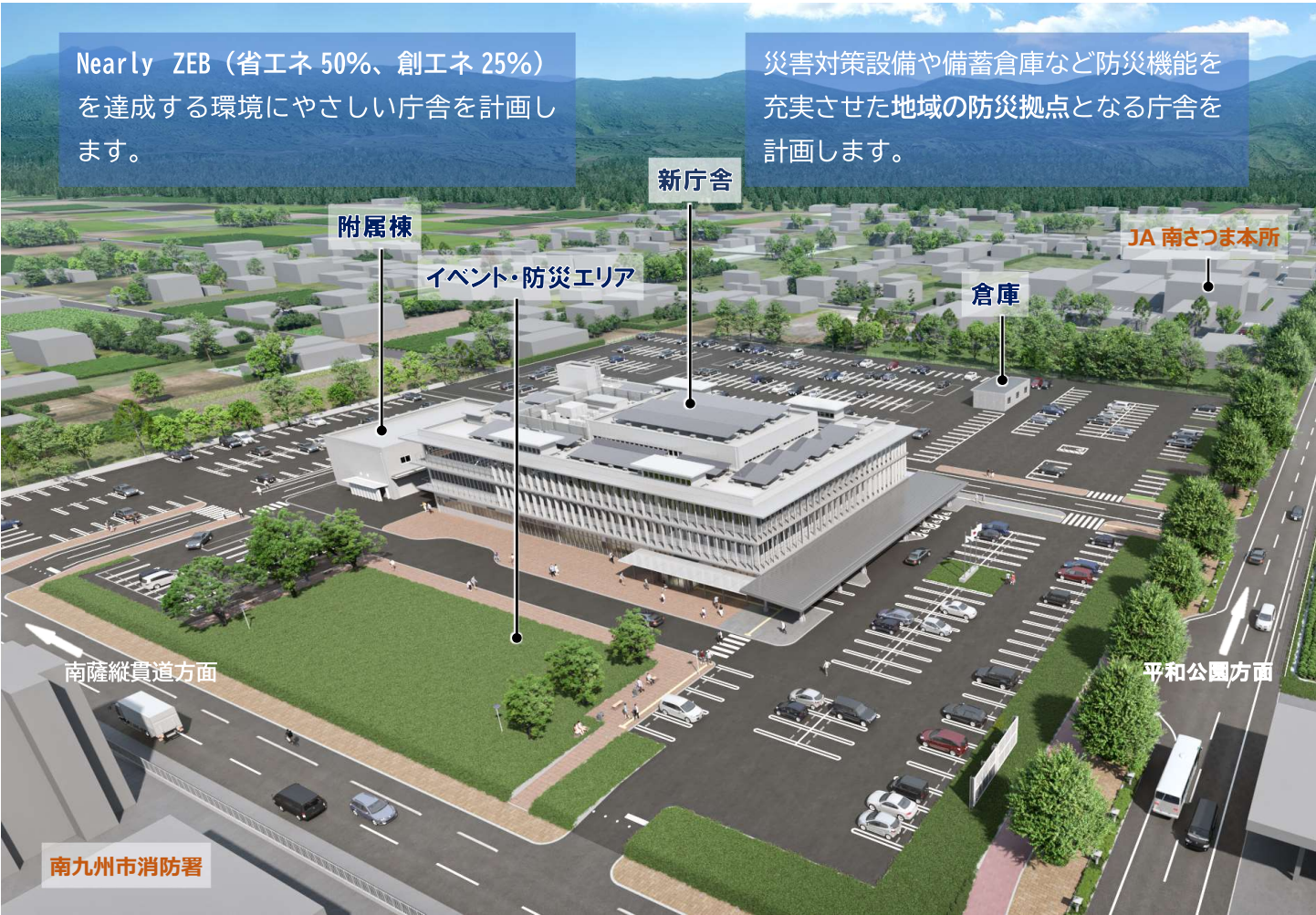


■南北環境断面イメージ図

新庁舎建設の実施設計について

1. 設計の基本理念・方針

- ① 地域の安心・安全を支える防災拠点となる庁舎
- ② すべての人にやさしい庁舎
- ③ 機能的・経済的なコンパクト庁舎
- ④ 環境にやさしい庁舎
- ⑤ まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎



■南東側から見た新庁舎全体のイメージ

※イメージ図は現時点のものであり、今後変更となる可能性があります。

2. 建物の概要

敷地住所：南九州市知覧町郡17327番地ほか
階数：地上3階建（本庁舎）、地上2階建（附属棟）
建築面積：2,982.73㎡（本庁舎）、463.66㎡（附属棟・渡り廊下）
延べ面積：6,527.83㎡（本庁舎）、883.12㎡（附属棟・渡り廊下）
構造種別：鉄骨造（本庁舎、附属棟・渡り廊下）
基礎工法：杭基礎（本庁舎、附属棟・渡り廊下）
駐車台数：95台（来庁者用、内思いやり駐車場3台）、72台（公用車用）、328台（職員用）
駐輪台数：20台（自転車）、10台（バイク）

3. 外観デザイン

建物の東面、南面、北面を開放的な外装とし、まちや風景と一体感のある外観デザインとします。グレーを基調とした色彩計画により、周辺環境との調和を目指します。

また、断熱効果を高めるため、建物外周には日射遮蔽効果のある深い庇とルーバーを設け、外壁面の開口部はコンパクトなアルミサッシとなり、下図のような外観となります。



■外観イメージ

※イメージ図は現時点のものであり、今後変更となる可能性があります。

4. 内装デザイン

南九州市の木材を採用した木の温もりが感じられる空間づくりと落ち着きのある色彩計画により、南九州市の歴史や文化、豊かな自然を感じることができるデザインとします。

① おもてなし、にぎわい、交流を促す明るく開放感あるエントランスロビーと多目的・交流スペース



■1階 エントランスロビーのイメージ



■1階 多目的・交流スペースのイメージ

② 南九州市の木材を利用した明るく親しみのある議場と市の美しい風景を眺望できる展望ロビー



■3階 議場のイメージ



■3階 展望ロビーのイメージ

5. 平面計画

① 利用しやすいフロア構成

総合案内を設置し、窓口のワンストップ化を図るなど市民サービスの向上を目指します。

関連部署を集約化し、分かりやすいサイン（案内表示）とすることで利用しやすいフロア構成とします。



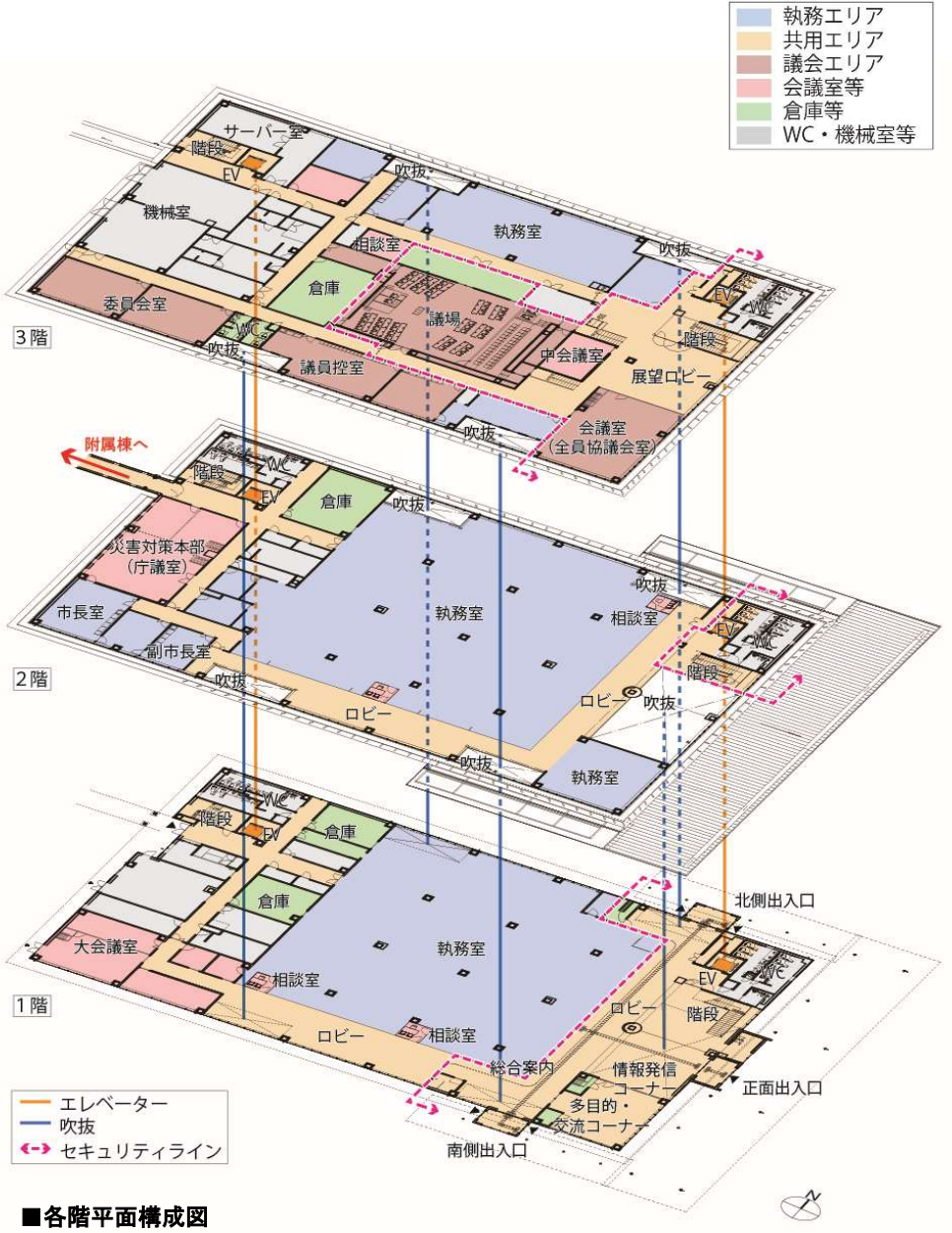
■1階 窓口（総合案内）のイメージ

② フレキシブルな執務空間

執務室はレイアウトの自由度が高いオープンフロアの空間とします。また、北面、南面の開口部からの自然採光や、自然換気を行い、快適性を高めます。

③ 市民利用スペースの充実

1階の多目的・交流コーナーや3階の展望ロビーは市民利用スペースとして、議場は講演や研修など多目的な利用ができる移動式を採用し、閉庁時でも市民が利用できる計画とします。イベント時には南側の広場と一体的な空間として利用できる計画とします。



■各階平面構成図

6. ユニバーサルデザイン

① 車椅子使用者や杖使用者に配慮したデザイン

建物内は通路幅を確保し、段差や勾配となる床面をつくらない計画とします。またオストメイト付きの多目的トイレを各階に計画します。屋外は、建物の入口に近い位置に障がいのある方優先の屋根付きの思いやり駐車場を配置し、雨天時にも濡れずにアクセスできる計画とします。

② 視覚障がいの方や聴覚障がいの方に配慮したデザイン

建物出入口や総合案内まで安全に移動できるよう、点字ブロックを設置します。避難誘導灯は音声・点滅機能付きとし、音声や点滅によって視覚的・聴覚的に避難を知らせる器具を設置します。



■屋根付きの思いやり駐車場



■オストメイトのある多目的トイレ



■点字ブロック